



- ①着果量の多い園地が見受けられます。今一度、見直し摘果を行ってください。成らせ過ぎは品質低下の原因となり、また次年度の花芽への影響、樹勢の低下を引き起こしますので、良い果実生産をするためにも気を引き締めて適正着果となるようにしましょう。
- ②果実の萼窪部（花どまりの部分）が赤くなっているものは、割ってみると茶色くやや腐敗しているものが見られますので摘果するようにしましょう。
- ③ハダニの発生が見られる園地があります。よく観察し、適期に防除を行ってください。

（令和3年8月2日調査）  
りんごの肥大

調査地点名	つがる		ジョナ		王林		ふじ	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
森山	7.4	7.0	6.4	6.9	6.2	6.0	6.3	6.0
駒木	7.4	6.6	6.7	6.5	6.3	6.2	6.4	6.3
古懸	7.0	6.8	7.2	6.8	6.1	6.2	5.9	5.9

当管内の肥大状況は、おおむね前年並みの肥大状況です。  
 県調査では、前年平年よりも大きい状況です。  
 成らせ過ぎの園地や、肥大のバラつきが多く見られますので、随時見直し摘果を行ってください。

## 見直し摘果

開花前からの凍霜害や開花期間中の不順天候により、肥大や品質のバラつきが多く見られている状況です。  
 また、現在高温干ばつ傾向が続いており、着果量過多の傾向を考えると、収穫時には小玉果や着色不良果が例年以上に多くなることが懸念されますので、良品率向上及び、次年度の花芽形成のための適正な摘果を行いましょ。

暑い中ではございますが、今一度早生種から着果状況を確認し、成らせ過ぎないように見直し摘果を行ってください。

## 支柱入れ

- ・受光状態・枝折れの防止、また風通しや薬剤のとおりを良くするために支柱を入れ、枝つりも随時行いましょう。
- ・不要な徒長枝は早めに整理しましょう（胴木バヤに多くのダニや害虫が潜んでいます）。

## つがるの着色管理

早生種は、青森県のりんごの味を印象付ける重要な品種です。

しっかりとつがるを生産するためには

- ①今一度見直し摘果を行い、葉果比を適正にし、糖の十分な蓄積を促します（着色、肥大、食味の向上など）。
- ②落花防止剤（ストップ液剤）は適期に散布（早期散布はしない⇒早期散布は食味不良・着色難・軟質果・油上がりなどの原因となります）。
- ③葉摘みの時期は果面が着色し始めてから行いましょう（ストップ液剤散布から5日以上してから）。
- ④葉摘みの程度はツル元の果実にかぶさった葉を2～3枚摘む程度までです。（つがるは葉がないと着色しにくい品種のため葉の取り過ぎは注意です）。

## 薬剤散布

ハダニの発生が多い園地が見受けられます。園地をよく観察し、適期防除に努めましょう。

散布時期 反当 散布量	対象 病害虫	無ボルドー方式			収穫前 日数	年間使用 回数	防除上の注意
		薬剤名 及び混合順序	倍数	1000 <sup>リットル</sup> 当 薬量			
12回目 8月上中旬 500 <sup>リットル</sup>	黒星病、褐斑病、斑点落葉病、炭そ、輪紋、スズ斑入点、モモシクイガ、ナシメ、コカクモン、ハダニ類、キンモン、アブラムシ	展着剤 イカズチ コロマイト アリエッティC	1,500倍 1,000倍 800倍	333g×2 500ml×2 1.25kg×1	前日 前日 前日	2回 1回 3回	ボルドー体系でのダニ剤 コロマイト ⇒ マイトコーネ 注①：アリエッティCは最後に加用する。
13回目 8月下旬 500 <sup>リットル</sup>	黒星病、褐斑病、斑点落葉病、炭そ、輪紋、スズ斑入点、モモシクイガ、ナシメ、リンゴカクモン、ハダニ類、キンモン、アブラムシ	展着剤 ダイパワー	1,000倍	1kg×1	前日	3回	注①：ダイパワーの使用回数は、開花期以降ベフランと併せて3回以内。 注②：キャプタンが含まれる薬剤の使用回数は6回以内。（アリエッティC、ダイパワー、オキシラン、オーソサイド）

散布時期や薬剤の選択などお困りの方は、大鰐購買センターへご相談ください。

暑い日が続きます。水分補給はこまめに行いましょう。